

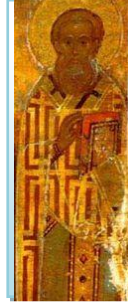
3月18日

主教教会博士エルサレムのシリル

Κύριλλος

(315頃～387)

～4世紀の迫害された神学者～



「エルサレムの
キュリオスのイコン」

18世紀:作者不詳

人名事典などではキュリオスと表記される彼は、エルサレムの主教であり、また四世紀における傑出した神学者でもある。彼は20歳くらいまで宗教の研究をしながら助祭として仕えていた。そして司祭となった後、カイサリアの主教アカキオスによってエルサレムの主教に任せられる。ところが彼が主教になった後、アカキオスは異端であったアリウス派へと転向してしまう。しかしシリルはその行動とアリウス派自体にも反対を表明したために、357年に追放されてしまう。359年のセレウキアの教会会議においてシリルの復権が認められ復位するも、以後もアリウス派によって二度も追放されてしまう。彼は35年間の主教生活の中で、16年間は流刑の身であったという。

彼が追放された原因には以下のようなこともあった。聖堂ではたくさんの聖具を保持していたが、ほとんど使わないものもあった。その聖具をシリルは売りさばき、お金に変えて貧しい人たちに食物を買い与えた。

さて、シリルは一貫してニカイア信条を擁護していたのだが、その中にある「ホモウシオス」という言葉が人間の造語であるとして嫌っていた。そのことが、彼がキリストの神性に対する批判をしていると取られ、異端の疑いがかけられることとなる。

379年、アンティオキア教会会議でその真偽を確かめるためにニュッサのグレゴリオスが彼のもとに派遣される。そしてシリルの信仰は正当であることが証明される。

また、381年のコンスタンティノポリス公会議では指導的役割を演じ、エルサレム教会を全キリスト教界の母として強調する。

彼の行った奇蹟かどうかは定かではないが、彼が主教をしていた351年5月7日に、約四キロメートルにわたって空に大きな十字架の形が現れ、太陽のような強い光が放たれたという。ギリシア教会ではこの奇蹟を記念して、5月7日を今でも祝っているという。

著作では、洗礼志願者のための教理手引書である「Catecheses」が重要である。

<特禱>

全能の神よ、あなたは主のしもべ、主教教会博士エルサレムのシリルの教えによって公会を照らして下さいました。どうか天の恵みをもって公会をますます豊かにし、忠実な証びとを起して下さい。その生活と教えに倣い、わたしたちがすべての人に救いの真理を宣べ伝えることができますように、主イエス・キリストによってお願いいたします。

アーメン